令和５年度「授業改善推進プラン」（全体計画）

板橋区立　板橋第三中　学校

■児童・生徒の学力の状況

〇「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「情報の扱い方」、数学では「図形」、英語では「書くこと」の平均正答率が低い。
〇ICT機器の活用が充実している。また、ICT機器の活用が勉強に役立っていると思っている生徒が多い。課題解決のために思考力・判断力・表現力等を発揮していると感じている生徒が多い。学習したことを他の学習に活かそうとしている生徒が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

〇学習の定着を充実するために、授業ごとのまとめ・振り返りを充実させる必要がある。
〇「読み解く力」の育成を向けて、MT（語彙力向上に関わる活動）と共書きを全授業で定着が不十分である。
〇全授業で「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進する。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

〇「板橋区授業スタンダード」に基づく授業を実践し、生徒の基礎学力（体力）の定着と向上を図る。
〇板橋区研究賞励校として昨年度まで取り組んできた「GIGAスクール構想の実現」に向けた研究実践を継続する。これまでと同様、授業革新と働き方改革を２つの軸で進めている。
〇「誰１人生徒を取り残さないプロジェクト」をスタート。今現在、家庭でも教室でもない第３の居場所としての「SBSルーム」を運用、ICT機器の活用の工夫、個別最適化、多様性を尊重する視点で研究を進めている。
〇　家庭学習課題を、共通課題と個別課題に分ける。
〇　読み解く力を正しく書く力と分かりやすく話す力と合わせ、その育成を全教科・領域を通じて図る。
〇　「一人一資格運動」を推進する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点１ 板橋区授業スタンダードの徹底	視点２ 読み解く力の育成	視点３ 総合的な学習の時間との連携
〇全授業でICTを含む様々なツールを駆使し、これまで取り組んできた「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを充実させる。	〇RSタイム（新聞コラムの書き写し）、MT（ミーニングタイム＝語彙力向上に関わる活動）、共書きを全教科の授業の中で習慣化させる。	〇カリキュラムマネジメントを意識し、探求的な活動を取り組みを行う。単純な調べ学習や行事の事前・事後学習で時間を費やさない。

■いたばし学び支援プラン２０２５の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
〇「小中一貫・板三エリア」における小中連携研修会は、昨年度と同じ年間４回とする。そのうち第３回の小中連携授業は、中学校教員が小学生に授業を行う。その中で本校が全教科で取り組んでいる、MT（ミーニングタイム＝語彙力向上に関わる活動）、共書きを取り入れる。	〇生徒が「東京で１番」と胸を張って言えれる学校を目指すことを念頭に、「総合的な学習の時間」の計画を、学校行事、他教科等の目的・内容・方法を意識し、意図的に配列を行う。 〇本校ではSDGsの視点を取り入れ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦することを目指している。例えば、学年・性別に関係なく参加する運動会のダンスを核に、教育課程の中でインクルーシブやジェンダーフリーについて学べるよう計画を立てている。	〇「全国学力・学習状況調査」の結果から、「使用頻度の高さ」「生徒のICT機器の有用感の高さ」が明らかになった。また、ICT機器が協同的な学びの場面でも活用され、その効果があらわれている。今後は、個別最適な学びの実現が課題である。本校では「誰１人生徒を取り残さない」を掲げ、他校の個別最適化の実践例や本校で既に実践されている教科の実践を校内で共有し、教科間、指導者間で差が出ないようにする。